



広報

Kunitomi Town Public Relations
目指すは、国富の魅力に迫る広報紙

2024
令和6年

12

NO.612

受け継がれる文化



希望の灯り

「特集」

文化の継承

富町には、このまちで生きる人々が、このまちならではの風土や素材を生かし、創造してきた多様な文化があります。古墳が点在するまち並みや地域のお祭り、脈々と伝わる伝統工芸や芸能、神事など……。何世代にもわたり育まれた知恵や技術、喜びや悲しみといった感情を共有することが地域の発展と豊かな生活に必要なことからこそ大切に受け継がれてきました。

長い年月を経て地域に根差した文化は、何にも代えることのできない資源であり、まちの宝です。

しかしながら、高齢化や担い手不足のほか、技術の進歩によって便利さを追求するようになったいま、その存続が危ぶまれています。自宅に居ながらインターネットで買い物ができ、会話ができ、娯楽を楽しめる現代。人と人とのつながりが広く浅く希薄化するとともに、生活の営みを色濃く残してきた文化への関心まで薄れているのではないのでしょうか。

今回の特集では、文化を守り抜く人の姿や、その姿に共感し、行動を起こした人たちの思いを紹介します。文化を守るために私たちに何ができるのか一緒に考えてみましょう。

今月の目次 広報くにとみ NO.612

03 特集 文化の継承 希望の灯り

14 まちの話題 河村^{あやか}彩花さんが県学生栄誉賞受賞 ほか

16 まちの話題 法華嶽公園で剣道大会を開催 ほか

18 情報広場 年末年始の施設休業案内 ほか

20 情報広場 油流出の事故が増えています ほか

22 みんなのひろば 短歌・俳句・川柳、まちのこえ ほか

24 国富探訪 青パト隊が九州防犯功労団体表彰を受賞

表紙の横顔



芸能のつどいが11月24日(日)、町農村環境改善センターで開かれ、約200人の観客が舞踊などの芸能を楽しみました。表紙は、舞踊を披露した山田^{ももえ}百恵さん(5歳)です。百恵さんは、舞踊を終え「お姉ちゃんと一緒に練習を頑張ってきました。今日は一生懸命頑張ることができました」と笑顔を見せました。(9ページに関連記事を掲載)

司書のおすすめ

今月は…クリスマスのえほん



うらがえしサンタ

高島那生

慌てたサンタが裏返しに服を着たら、黒い服の“うらがえしサンタ”になった！寒いのが嫌いで、口は悪いしエラそうなサンタだけど、なぜか子どもたちには人気があつて…。



ケイティのクリスマス・イブ

ジェームズ・メイヒュー

サンタさんのお手伝いをするようになったケイティと弟のジャックは、ロンドンのまちをとり回ることになり…。びっくりゆかいなケイティの大冒険。

読み聞かせ会のご案内

■読み聞かせ会※フレンド、こぶたの会、司書が週替わりで担当

▶日時：毎週土曜日 11 時～(20 分)

▶場所：おはなしのへや



国富町立図書館の開館時間 ☎75-9577

火曜～金曜(月曜休館)	午前10時～午後7時
土曜・日曜・祝日	午前10時～午後5時



蔵書検索



リトルサンタ

リトルサンタ

丸山陽子

ぼくのパパはサンタクロースだから、クリスマスはいつもひとりぼっち。「クリスマスはパパと一緒に過ごしたい」と星に願いをかけたら、パパは足を骨折してしまい…。



まどから★おくりもの

五味太郎

クリスマスのプレゼントを配るサンタさん。窓をのぞいて誰のおうちか確認しては、プレゼントをぽいっと投げ入れる。でもこのサンタさん、うっかりもののようで…。

上映会のご案内

▶日時：12月22日(日) 13時30分～(30分間)

▶場所：町図書館情報研修室

▶上映作品：クリスマスキャロル

▶あらすじ：けちでひねくれ者のスクルージは、街の嫌われ者。あるクリスマスの夜、スクルージの元に、7年前に死んだ仕事仲間のマーリーの幽霊が現れ…。

法華岳うずら車は、法華嶽薬師寺の建立が起源とされる本町の郷土玩具です。イヌタラでできた本体に、松の車輪が付けられ、現代というミニカーのように手で転がして遊びます。また、主材料のイヌタラには鋭いとげがあることから、病気や災いから身を守る縁起物としても大切にされてきました。昭和58年には、県の伝統工芸品に指定。地



域住民が地域特有の材料で製作し、お土産品として重宝されたほか、年に一度の法華嶽薬師寺例祭では、各家庭が家族総出で製作したうずら車が軒先に並び、販売されていました。



しかし、平成以降、高齢化で作り手は激減。テレビゲームやパソコンなどの娯楽の普及は、需要の低下に拍車をかけました。

守ることは難しい

平成7年 このままでは忘れられてしまうと小山さんを含む有志4人が保存会を発足。「うずら車じや飯は食えん」と笑い合いながらも、メンバー全員が仕事の合間でメディア出演や学校の講話など積極的に活動の掛け付け体験で出来上りを見せ合う子どもたちの笑顔は活動の原動力でした。

一方、準備は根気のいる

との両立が困難になると、次第にメンバー同士で連絡を取り合う頻度が減っていき、5年間続いた活動はとうとう途絶えてしまいました。「誰が悪いわけでもありません」と小山さん。一人での活動となった今でも、うずら車を必要としてくれる人や、講話後に送られる子どもたちの感謝の手紙が

心の支えとなり活動が続けています。

亡き親友がくれた光

平成に入り、うずら車が下火になっていく頃、新しいアイデアを熱心に考えてくれていたのは林業を営む親友でした。そんな思いとはうらはらに、小山さんは伝統ある形へのこだわりから親友の意見を受け流していました。しかし、親友が不慮の事故により41歳という若さで他界。以来、小山さんは「もし、親友の思いに正面から向き合うことができていたなら、生きていくうちに思いを形にしてあげることができていたかもしれない」という後悔を抱え続けました。

自分の中の常識や価値観

「親友の最期の願いを叶える作品を」と決意したのは65歳のとき。親友がくれたアイデアの中から形にしたのはキーホルダーでした。長い年月を経て、親友の思いが形になった瞬間です。



深く削れた作業台が手になじむ

ミニカーのように転がして遊ぶという固定観念が初めて切り替わったもので、現代の人にも身に付けて身近に感じてほしいとの思いが込められています。

代え難い時間

小山さんの自宅にある机や額縁は立ち木から手作りしたものです。小山さんにとって、立ち木から木目の美しさを想像し、木の香りを感じながら製作する時間は代え難い楽しみ。「うずら車も同じです。好きじやなきや、65年も続けられんです」と笑顔で語り、のどかな工房の一角で、使い込んだ道具を手にします。



主材料のイヌタラの表面を整える作業に力を込める

こやまいつお
小山五雄さん(75) [狩野]

本業である林業の傍ら、うずら車を製作し続けて65年。製作の技術や知恵、普及活動などの功績が認められ、令和6年2月、県の伝統工芸士に認定。年間約1,500個を自宅兼工房で製作する。

小山さんがうずら車を作り始めたのは小学生の頃でした。父の隣に座り、見よう見まねで形を整え絵付けをしました。製作の途中ナイフで誤って指を傷つけ、けがをしながら完成させたのが第1作。上出来とは言い難い仕上がりのでしたが、父と同じものを作れた喜びは、より良いものを作りたいという探究心が芽生えるきっかけになりました。

法ヶ岳区の法華嶽薬師寺では毎年2月、多くの人が訪れる例祭が開かれます。昭和40年頃までは、うずら車売るために各家庭が競って作り、軒先に露店が並びました。当時は自分で作ったうずら車の売上げがお小遣い。子どもたちは、もろぶた※に作ったうずら車を並べ、訪れた人に足を止めてもらおうと、親や兄弟、友人たちと必死になって声を張り上げました。小山さんは「思い出が色褪せることはありません」と子どもの頃を懐かしみます。

第1作は、父の隣で

守り継ぐ郷土玩具

県の伝統工芸品に指定される本町の郷土玩具「法華岳うずら車」は、かつて、法々岳区や狩野区を中心に、地域の人の手によつて盛んに作られていました。しかし、時代の移り変わりとともに作り手は激減。次第に、うずら車の周囲には「伝統をどう継承するか」という声が聞かれるようになりました。現在、町内で製作に携わるのは小山五雄さんただ一人。作り手が減少してもなお、製作を続ける原動力を聴きました。

※ つくりたての餅や饅頭を入れたりする長方形の木製の箱

日向法華嶽うずら車保存会
松元修会長「宮崎市佐土原町」



会員それぞれの長所を生かし
うずら車の価値を伝え残していく

小山さんから「保存会の設立は大変ありがたいこと」と背中を押していただき、共感してくれる仲間に出会えたことが始まりです。伝統を残すために、一人で解決できない課題は支え合うことが大切だと思います。

保存会の会員がさまざまな長所を持っています。地域づくりに熱い思いを持つ人やうずら車への愛情が人一倍深い人、柔軟なアイデアを持つ人や、人と人をつなぐ力のある人など、それぞれが得意なことを生かし活動を続け、周囲の関心を高めることができれば、おのずと継承の道も拓けると信じています。

PROFILE：会員紹介

- p6写真右端：金丸美保子さん〔太田原〕
国富町が大好きで地域づくりに熱い思いを持つ。うずら車を拠点とした地域交流の機会創出に力を入れる。
- p6写真右から2番目：吉岡恵実さん、宵ちゃん〔太田原〕
うずら車に一目ぼれ。以来、珍しい絵付けや、歴史資料があると知ると、県外の郷土玩具店にも足を運ぶ。
- p6写真左から2番目：川口真さん〔犬熊〕
小さい頃から郷土玩具が好き。うずら車の歴史と保存会の取り組みに感銘を受け、保存会の門をたたく。
- p6写真左端：日高久留美さん〔犬熊〕
うずら車に関するアイテムやうずら舎のロゴデザインなどを手がける。紙芝居「うずら車物語」の発起人。



（同会のInstagramは左記QRコードから）

は小山さんの工房を訪れたとき。製作にかける労力や長年の経験に基づく技術、郷土玩具の製作に尽くす小山さんの献身的な姿に感動を覚え、技術を学び継承していくことで国富町の役に立てれば」と思い、仲間を募りました。

末永い継承の形

誰からともなく意見交換が始まるほどの高い熱量で活動する保存会ですが、製作技術の継承は依然として課題です。保存会としては、製作を小山さんだけに任せるのではなく、従来のように各家庭で作

り続けられることが末永い継承の形だと考えています。また、将来的には町民それぞれが作ったうずら車をうずら舎へ持ち寄り、販売できる仕組みづくりも見据えます。

そのために、まずは関心を寄せてもらうことが大切。保存会は「関心を寄せれば見方が変わり、想いはもつと深くなる」と信じ、記憶に残る体験の場を創り出しています。

活動は主に、インターネットを活用した情報発信や町内外のイベント出店、町内の学校への出前講座です。特に、うずら車の絵付け体験をはじめとするワークショップには力を入れ、絵付け体験の前には歴史を楽しく伝える自作の紙芝居を披露するなど、見方を変えるきっかけづくりを欠かしません。さらに、11月17日(日)には、うずら舎で初めてとなるイベントを開催。保存会は「うずら舎を拠点に交流の機会を創り出し、うずら車の歴史と価値を直接伝えていくことで、国富町を代表する郷土玩具として一層広めていきたい」と未来を見据えています。



日向法華嶽うずら車保存会の皆さん

うずら舎の誕生 継承へ一筋の光

製作者が一人になり、存続の危機に直面しているうずら車ですが、昨年、地域に脈々と根付いてきた歴史に感銘を受け、素朴で愛らしい見た目に可能性を見いだした有志たちが、新たなうずら車保存会を立ち上げました。インターネットを活用するなど柔軟な発想と行動力は、衰退しつつあるうずら車の未来を照らす一筋の光となっています。

新たな保存会の誕生

「うずら車をたくさんの人に知ってもらい、かつてのように法華嶽薬師寺大祭で露店が並ぶ光景を見てみたい」。

そんな思いを込めて活動するのは、令和5年11月に発足した日向法華嶽うずら車保存会です。令和6年9月には、活動拠点となる「うずら舎」をオープンしました。

会長を務めるのは宮崎市佐土原町在住の松元修さんで、会長の思いに賛同した本町在

住の4人が加わりました。

人情ある国富町が好き

うずら車の現状を知り「居ても立っても居られなかった」という松元会長。以前から森林保全に関するボランティアを町内で行ってきました。活動中、生えている木々の特徴を教えてくれる町民や食事処でいつも明るく迎えてくれる町民の思いやりに深く感動し、人情ある国富町へ愛着を抱くようになりました。

保存会の設立を決意したの

INTERVIEW



六日町伝統歌舞伎人形保存会

えのもとたけし
柄本剛志会長（中）

くらもとすけいち
蔵元助市さん（左）

くろぎもとお
黒木基夫さん（右、発足当時の会員）

戦後、途切れていた歌舞伎人形を復活させるため、昭和47年に有志で保存会を発足。8月上旬の本庄稲荷神社夏祭りに合わせ、5月頃から製作する。会員14人。

交流と共感は心を豊かにする元気の源

文化協会では、短歌・俳句・川柳などを掲載する「文芸くにとみ」の発行をはじめ、大切にしている活動が多くあります。舞踊や太極拳、コーラスなどに親しむ皆さんの発表の場「芸能のつどい」では、伝統的なものを残しつつ新しい文化や人のつながりを育む企画を考えます。今年は、本庄高校のダンス部の皆さんに出演を依頼。練習の様子を見学するため学校へ訪れると「少しでも多くの人知っている曲で踊りたい」と自分たちが生まれる前の曲を選び、振付を考えてくれました。また、忙しい時間の合間を縫って「あいさつだけでもしたい」と会いに来てくれたダンス部唯一の男子学生の思いにも感動しました。当日は、本庄高校ダンス部のひたむきな姿に多くの拍手が送られていました。人と人との直接的な交流が減りつつあるいま、つながりを生み出し、心を豊かにしてくれる文化の灯は絶やしたくないと思っています。本庄高校の皆さんが観客を笑顔にする姿を見て、あらためてその思いを強くしました。

対話と笑顔あふれたにぎわいを現代に

六日町伝統歌舞伎人形は、六日町に住む人たちの手で作られてきました。昭和初期頃までは、六日町の7講中（今でいう班のこと）が見物客の期待に応えようと競って作り、地域ににぎわいを求めたものです。製作の過程はお互いに見せないのがしきたりで、当日一斉に披露し、苦心の作品を自慢します。みんな知識も経験もないところから始め、ふるさとに尽くしてきました。会員の平均年齢が76歳になった今でも、人形作りへの気持ちが衰えることはありません。人形を披露する小屋は、炎天下の中でも鉄パイプや木材を使って自分たちで組み立てます。新会員はなかなか集まりませんが、今後は視野を広げ、町内一円から関心のある人を募ることも考えています。保存会発足前とコロナ禍には人形作りを中止した時期がありました。何度も復活したのは、私たちが受け継いだものを次代にも伝えたいからです。人形を通して、人々が対話し、まちに笑顔があふれていたあのにぎわいをもう一度よみがえらせたいのです。

INTERVIEW



国富町文化協会会長 橋本 和恵さん〔十日町西〕



芸能のつどいでダンスを披露する高校生たち



六日町伝統歌舞伎人形〔町指定無形民俗文化財〕

230年以上続くとされる人形。稲荷神社夏祭りの出し物として製作され、その後、町文化会館に一年間展示される。

まちの取り組みに目を向ける
文化の灯を絶やしたくはない

うずら車^{くるま}だけでなく、文化に関わる人たちの多くが小山さんと同じように受け継いでいくことの難しさを感じています。特に、近年は、コロナ禍で活動の中止を余儀なくされた祭りや年中行事も多くあります。継続を困難にさせるのは、担い手不足や高齢化だけではないのです。

一方、さまざまな課題に直面しながらも「文化の灯を絶やしたくない」と、継続への希望を見出そうとする人たちもいます。その活動の原動力となっているのは、地域で協力して創り出したにぎわいの思い出や、文化がもたらす感動を共有し合った時間です。

先人たちから受け継いだ文化の存続を願い、歩みを止めない前向きな姿が、新たなつながりを生み出す力となり、文化の未来を明るく照らしています。

伝承が人と地域をつくる

高齢化や担い手不足、便利さを追求する社会の中で、先人たちから受け継がれてきた文化を守ることが難しい世の中になってきています。こうした時代の移り変わりの中で、古くから伝わる風習などの民俗文化の伝承を「人づくりと地域づくり」へ生かす研究をする宮崎大学の鈴木良幸さんに、文化を受け継いでいくために必要なことを聴きました。

INTERVIEW



宮崎大学地域資源創成学研究科
講師 鈴木 良幸さん

文化の伝承には心が宿る

国富町の祭りのひとつに本庄稲荷神社夏祭りがあります。そこで披露されるヨイマカ※は、いく年もかけて大人から子どもたちへ伝承することで知られていますが、このように体得で受け渡されてきたものは、強烈な印象として残ります。こうして体が覚えたことは、大人になってから先人たちの思いが腑に落ちるときがきて、生きる支えになることがあるのです。

また、文化には人の心が宿ります。受け継がれたものや、体で伝えられた技術に加え、人や地域への思いも伝わるのが伝

承です。「心は精神論だ」と軽視されることもあります。人から人へと思いが受け継がれることで文化の重みは増すのです。

お祭りは、毎年同じことを繰り返しているように見えます。しかし、実際はその時代ごとに表面の形を変え、地域を思う気持ちが生かされています。決して、新しさを持っていないというわけではありません。だから、きらきらと輝いているのです。

文化の大切さを自覚する

便利さを追求し、自分の住む地域にないものを求めようとする生活の中で、伝統的なものは価値を持たなくなりつつありま

す。また、現代は文化の在り方や存続にも論理を求めようとする傾向があります。

文化という枠組みは漠然としていて、多くの人の印象は「良く分からないが、大事な気はする」という消極的なものです。しかし、文化の伝承こそが私たちの心の豊かな生活と地域の深いつながりを育んできたのです。伝承の機運を高めるためには、文化を守ってきた人々を中心に、地域の人々が「受け継いできた文化がなぜ大事なのか」を自分自身に問いかけ、気づきを言葉にして学び合うことが大切です。

今まさに、文化を伝承することの意義をあらためて見出し、自分たちの地域生活に生かすことができるのか問われています。古いものとしてお蔵入りさせては、せっかくの文化の力が台無しです。みんなで力を合わせて、地域の先輩たちのもとへ足を運び、文化に学ぶことが明日の人づくりや地域づくりにつながるのです。

※ 4人の稚児を乗せた太鼓台「ヨイマカ」を上下左右に揺らす荒業を披露する〔町指定無形民俗文化財〕



田尻棒踊り〔町指定無形民俗文化財〕

田尻区の宇津野神社に奉納される棒踊り。
太鼓や鉦、唄に合わせ、6人一組で勇ましく踊る。

地域への恩返しを込めて

大学の講義で「記録が残らず失われていく文化もある」という言葉を聞き、ふと5歳上の兄や近所の男の子が楽しそうに踊っていた棒踊りが心に浮かびました。生まれ育ったまちのために何かできないかと思い、地元にいる父に電話をすると「昔のように小さい子は踊っていない。年齢関係なく新規会員はありがたい」との回答。棒踊りの唄を楽譜に残すことならできるかもしれないと考えたことをきっかけに、卒業論文で現存する田尻棒踊りの様子や役割を記録に残すことにしました。「協力がもらえるのか」という不安は、小さい頃にお世話になった人たちが温かく迎えてくれ、すぐに和らぎました。予定したインタビューの数も倍増。棒踊りの歴史を楽しそうに語る皆さんの姿がきっかけで見えました。田尻で生まれ育った人たちは、踊りを通じて人を知り、仲を深め、地域への愛着を育んできたのだと感じました。学生生活も残り4か月。卒業論文の完成をもって、成長させてくれた地域への恩返しとなるよう頑張ります。

INTERVIEW



こざむらい ま お
小侍 万桜さん

田尻出身。現在、県外の大学で日本文学を専攻し、民俗学を学ぶ。卒業論文の研究テーマとして棒踊りの記録を残そうと、今年9月に帰省し、故郷を取材。現在も研究が続けている。



国富町には、文化の継承に向け、活動続ける人たちがいます。それを支える人たちがいます。子どもたちへ受け継いでいきたいと願い、体験の場を創り出す人たちがいます。その背中を頼もしいと感じた子どもたちもまた、大人になり、このまちで生きる人の成長と地域の発展を願ってくれるはず。そうして、人の思いが幾重にも重なり受け継がれた文化は、何にも代えることのできない、まちの宝です。



今年も、町内各地さまざまな場で、伝統ある文化が披露されてきました。文化に関わることで、喜びや悲しみ、ときには言葉で言い表すことのできない感動に包まれた人も多いのではないのでしょうか。

しかしながら、時代の移り変わりによって継続の難しさを感じている人たちも多くいます。では、今を生きる私たちにできることは何でしょうか。好きな気持ちを大切にすることや周囲の言葉に耳を傾けること。周囲が文化の大切さを気づかせること。文化の灯を絶やさないという信念を持つこと。便利な時代になったからこそ動画や音声として記録に残すことなど、私たち一人ひとりがそれぞれの得意なことを生かし、文化に関わっていくことが大切です。

そのために、まずは、おじいちゃんやおばあちゃん、地域の先輩たちのもとへ足を運び、話を聴くことから始めてみましょう。文化の大切さを知る人は私たちの身近なところにいます。

「うずら車のことを知りたい」「地域の踊りのことを知りたい」「どうして毎年頑張ってるの」

きっと、先人たちと地域で過ごした思い出から、このまちで生きる人の成長と地域の発展を願う心を感じるはず。そして、その心は郷土愛に他なりません。先人から受け継いできた文化の豊かさを共有し、郷土愛を受け継いでいくことができれば、私たちの子どもや孫、その次の世代までも、このまちには笑顔があふれ、住みよいまちが広がっているはずです。

特集 文化の継承

希望の灯り



5人1組に分かれ、組み立てたダンボールベッドと簡易テント

災害時の情報収集と避難所運営を学ぶ 県総合防災訓練に合わせ避難所運営訓練

県総合防災訓練の一環で避難所運営訓練が11月4日(月)、アリーナくにとみで開かれました。大規模地震が発生した際のじん速な避難所運営に繋げようと実施。区長や自主防災組織など60人以上が参加し、災害時に使用する段ボールベッドや簡易テントの組み立てを行いました。町の担当者は「避難者同士助け合いながら自主運営に努めていただきたい」と呼びかけました。

自転車競技大会での功績をたたえ 河村彩花さん（本庄中2）が県学生栄誉賞受賞

優秀な成績を収めた学生を表彰する宮崎県学生栄誉賞の授与式が10月25日(金)、県庁で開かれ、2024年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会U-15女子で優勝を果たした河村彩花さんが受賞しました。式の後、中別府尚文町長を表敬訪問した河村さんは「支えていただいている皆さんに感謝し、これからも自転車競技を頑張りたいです」と話しました。



授与式後、中別府町長へ表敬訪問した河村さん



町内には、百歳を超えるご長寿が21人います（11月19日時点）

三根米子さん〔旭〕 めでたく百歳の誕生日を迎えました

11月5日(火)、三根米子さんがめでたく百歳の誕生日を迎えられ、百歳祝い金が支給されました。昔は自分で育てた野菜を近所の人たちによく配っていたという米子さん。「皆さんの喜んでくれる姿が何よりうれしくて、野菜づくりと牛養いを一生懸命頑張ってきました。おかげさまで、足腰も強くなりました」と笑顔で話しました。いつまでも、どうぞお元気で。

尊い犠牲と苦難の歩みを胸に 終戦から79年、恒久平和を願い「殉国者慰霊祭」

国富町殉国者慰霊祭(町遺族会、町社会福祉協議会共催)が10月29日(火)、町農村環境改善センターで開かれました。式には、戦没者の遺族や関係者が参列。町内の殉国者663柱の御霊へ黙とうを捧げた後、神事、献花を行い冥福を祈りました。また、町遺族会の比良元邦俊会長〔田尻〕は「恒久平和を願い、次世代に語り継いでいきたい」とあいさつを述べました。



伊東ひよりさん〔八代中3〕が平和への願いをテーマに作文を朗読



荒木教育長から県外大会出場補助金が手渡されました

「木脇ドリームズでの練習を生かしたい」 原田明花さん（木脇小5）が九州大会へ

小学生女子選抜チームの宮崎ガールズ（宮崎市）に所属する原田明花さんが11月13日(水)、荒木幸一教育長へ第6回ろうきん杯九州女子小・中学生軟式野球大会への出場を報告しました。野球を楽しむ兄に憧れ、自身も始めたという原田さん。大会を前に「普段は木脇ドリームズで練習しています。監督やコーチに習ったことを精一杯出せるよう頑張ります」と話しました。

火遊びは絶対にしません 園児たちが元気いっぱい「防火の誓い」

幼年消防フェスティバルが10月30日(水)、宮崎市北消防署西部出張所で開かれました。本町と綾町、宮崎市高岡町の保育園や幼稚園でつくる幼年消防クラブ6団体154人の園児たちが参加。このうち、本町からは木脇保育園と三名こども園が参加し、園児たちはハンカチを口にあてながら煙の中を進んだり、防火服を着て放水を体験したりして、防災の大切さを学びました。



水の力強さにびっくりする子どもたち



児童たちが完成させたレンガアーチ橋

測量や橋の模型の組み立てを体験 土木に親しむふれあい体験イベント

楽しみながら土木に親しんでもらいたいと、土木の日ふれあい体験イベントが11月19日(火)、木脇小学校5年生を対象に開かれました。児童たちは、道路や河川整備の必要性や災害時の注意点を学んだあと、重機の試乗や測量、橋の模型の組み立てなどに挑戦。レンガと砂のみで造る「レンガアーチ橋づくり」では、完成させた橋のうえを渡り、喜びを分かち合いました。

故郷を想い、応援を続ける人たちの輪 在京国富会総会が華やかに開催

本町出身で、関東地域に在住する人たちで構成される在京国富会（菊田和男会長）の総会が11月2日(土)、都内で開かれました。同会は、県産品がそろう新宿みやざきKONNE館のPRや町・県の産業振興への協力など幅広く活動。この日は「同会の更なる活性化と会員拡大のため、本町出身で関東地域に在住する人への呼びかけを行っていききたい」と気持ちを新たにしました。



会員など29人と本町から8人が出席し郷土談義に花を咲かせた



八代小学校2年生の皆さんが11月15日(金)、町食生活改善推進員(諏訪美知子会長)のサポートを受けながら「ピーマンのシーチキンチーズ焼き」を作りました。町の食育・農育事業の一環で、町内全ての小学校で実施。調理前に行う授業では「い

関わる人や食材へ感謝の気持ちを大切に 町内4つの小学校で食育と農育

ただきますとごちそうさま」に込める感謝の気持ちなどを学びました。実習では、町内産のピーマンを使用して調理。授業後、小倉百瑛さんは「作るときは少し難しかったけど、みんなで頑張りました。とてもおいしかったです」と笑顔でした。



社会福祉の発展に功績のあった人を顕彰する宮崎県社会福祉大会が11月12日(火)、宮崎観光ホテルで開かれました。本町からは民生委員・児童委員を長年にわたり務めた日野紘一さん(「塚原」と15年以上務める巢山均さん(「六日町」、長嶺正次さん

多年にわたり社会福祉の発展に貢献 本町から5人2団体を顕彰

ん「宮王丸」へ県知事表彰が送られ、社会福祉事業やボランティア活動の功労者として黒木真隆さん(「上馬場」と中山知子さん(「桑鶴」、県立本庄高等学校(宮竹恵理校長)と竹細工くにとみ真竹の会野田京子代表)へ県社協会長表彰が送られました。



53団体598人の剣士が集う
法華嶽公園で剣道大会を開催
第31回富田法華嶽公園少年少女剣道大会が11月17日(日)、法華嶽公園ふれあい広場で開かれ、県内の53団体598人の剣士が集いました。町内から、陵武館剣道と木脇少年剣道が出場。開会式では、陵武館の上園梨子さんが選手宣誓を行いました。剣道を始めて2年

目の赤木怜志さん(木脇少剣)は試合後「負けて悔しいけど、頑張ることができました」と振り返りました。また、個人戦では小学2年生の部で日高結介さんが準優勝、3年生の部で那須拓海さんが第3位、中学2・3年生男子の部で日高宗之介さんが優勝しました。

「何でも挑戦してみろかい」 平原区で男の手料理クラブ

平原区のいきいきサロンが行う「男の手料理クラブ」が11月13日(水)、平原地区営農研修センターで開かれました。開催は、5月に行った餃子作りに引き続き2回目です。今回は5人が参加し、前夜から仕込みを行った材料をもとに豚汁といなり寿司を調理しました。材料を切る工程では「厚切りになったり薄切りになったりして難し

い」と四苦八苦しながらも「これが男の料理」とお互いに励まし合い2時間かけて完成。同サロンのメンバーなど約20人を迎え食卓を囲みました。今回、男の手料理クラブに参加した田代和利さんは「平原区の皆さんが集まって楽しい食事ができるのは素晴らしいことです。これからも続いていくことを期待しています」と話しました。

1 平原区の津江利亮さん、児玉恭行さん、中本富治宣さん、渡邊正剛さん、田代和利さんの5人が調理2 サロンのメンバーなど多数集まり食卓を分かち合う3 仕込みから調理までこだわった一品。食事後には「片付けまでが料理」と洗い物を済ませた



山内さんと一緒に演奏をする機会が設けられた



町内3つの中学校の生徒たちが著名人に学ぶ中学生講演会が11月12日(火)、アリーナくにとみで開かれました。講師は、本庄小・中学校の卒業生で日本の歴史や風景をテーマに作曲、演奏活動を行う山内達哉さんです。5人の演奏家とともに生演奏を披露し「夢を

「夢を応援してくれる人は必ず現れる」 音楽人・山内達哉さんが講演

たくさんの人に話してほしいと思います。言葉にすれば応援してくれる人が必ず現れます」とエールを送りました。ヴァイオリンを初めて演奏した兵頭つばささんは(八代中2)「サポートがあり最後まで引くことができました」と笑顔でした。



給水管の凍結に注意

寒波で家庭の屋外水道給水管(以下、給水管)が凍結する恐れがあります。

▶このような給水管は特に注意！

- ①日の当たらないところにある ②風当たりの強いところにある ③温水器の配管部分などがむき出し

▶凍結の防止方法

給水管を保温材(毛布・布などで代用可)で保護しましょう。

▶水が凍って出ないとき

凍った蛇口や給水管にタオルなどをかぶせ、その上からぬるま湯をかけ溶かしましょう。急に熱湯をかけると故障の原因になります。

▶給水管が破損したとき

メーターボックス内の止水栓をゆっくり閉めて、町指定の給水装置工事業者に修繕を依頼してください(修繕費用は自己負担)。

▶長期の留守や空き家を持つ人

閉栓依頼の連絡をお願いします。

問 上下水道課 ☎ 内線332



桑鶴区の民生委員変更

9月13日付けで、桑鶴区の民生委員・児童委員に寺原美代さん[桑鶴]が委嘱されましたのでお知らせします。

問 町社会福祉協議会 ☎ 75-6267



後期高齢・介護保険料の納付証明書

確定申告などで社会保険料控除の証明として使用する納付証明書(令和6年分)を1月中旬に送付します。

▶令和6年分の送付 納付証明書は普通徴収(納付書または口座振替)の人のみ送付します。

▶特別徴収の人 日本年金機構が1月中旬に送付する公的年金などの源泉徴収票に納付額が記載されます。

▶遺族年金や障害年金から年金天引きされている人 公的年金の源泉徴収票は送付されません。そのため、納付証明書が必要な人は保健介護課窓口で申請してください。

問 保健介護課 ☎ 内線314



無料の風しん抗体検査

昭和37年度～昭和53年度生まれの男性を対象に送付したクーポン券「風しん抗体検査・予防接種」の使用期限が令和7年3月31日まで延長されました。クーポン券を紛失した人は再発行することができますので、この機会に検査を受けてみませんか。

問 保健センター ☎ 75-3553



無料のHPVワクチン接種

下記①と②の両方を満たす女性は令和7年3月31日まで、HPVワクチン接種を公費で接種できます。ワクチンにはHPVの感染や子宮頸がんを予防する効果があることが分かっています。接種を希望する人は早めの接種をご検討ください。①誕生日が平成9年4月2日から平成21年4月1日の人 ②過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない人

問 保健センター ☎ 75-3553



闇バイトに要注意

SNSなどに「短時間で高収入が得られる」という投稿が掲載されていますが、安易に応募してしまうと詐欺の受け子や強盗などの犯罪に加担させられてしまいますので、絶対に手を出さないでください。

問 警察相談ダイヤル ☎ #9110



はたちの成人式

はたちの成人式への参加を希望する人は、事前に社会教育課へご連絡ください。当日は式典のほかアトラクションと記念撮影を予定しています。

▶日程 令和7年1月12日(日)

▶受付 9時30分～10時30分

▶場所 国富町農村環境改善センター

▶申込締切 12月11日(水)まで

▶その他 記念写真の購入を希望する人は、当日現金で2,300円をお持ちください。

問 社会教育課 ☎ 内線423



介護の届出制度を活用



介護福祉士等の資格を持つ人は、離職した際に氏名や住所などを県福祉人材センターへ届け出ることが努力義務となっています。現在従事する人も、届出をすることで研修や資格試験の案内を受け取ることができます。

問 県福祉人材センター ☎ 32-9740



農林業センサスを実施

農林水産省は、国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における実態を明らかにすることを目的に、令和7年2月1日を調査期日として2025年農林業センサスを実施します。調査対象者には、宮崎県が任命した調査員が訪問し、聞き取り調査や調査票の配布・回収を行いますので、ご協力をお願いいたします。

▶調査期間 1月下旬～2月下旬

問 企画政策課 ☎ 内線243



夕暮れ時と夜間の事故防止

夕暮れが早まるこの時期は、交通事故が多く発生します。車両は早めのライト点灯、歩行者は反射材を着用するなど、事故防止に努めましょう。

問 総務課 ☎ 内線213



活き行きバスカ事業受付

町内の宮交バス停留所で乗車または降車した場合に、一乗車当たり100円で利用できる公共サービスです。

▶対象者 本町在住で70歳以上の人

▶受付日 12月24日(火)

▶時間 9時30分～11時30分

▶場所 役場1階 選挙管理委員会室

▶必要なもの ①案内文書に同封の資格者証 ②身分証明書※代理人が申請する場合、申請者本人の身分証明証と代理人の身分証明証が必要 ③二モカカード※持っていない人は作成のため500円が必要。

問 福祉課 ☎ 内線323

年末年始のごみ収集など

町ホームページからも詳しく確認することができます。



※①特別収集を行います。東部1班と西部1班＝30日(月)可燃、東部2班と西部1班＝31日(火)可燃。※②12月23日(月)は16時30分まで受付します。※③12月30日(月)は午前のみ収集します。(受付は11時30分まで)※④通常の収集と同様の分別が必要です。家電リサイクル対象品目やタイヤなどは持込み不可です。※⑤臨時のし尿くみ取りは12月26日(水)まで受付します。

災害時の収集について

ごみ収集の安全確保が困難と判断した場合は、町ホームページや防災情報メール、アプリ「さんあ～る」などでお知らせします。災害時は、情報収集に努めるようお願いします。

年末年始の施設休業案内

役場：75-3111(内線番号を伝えてください)

(※注)急を要する案件は宿直が受付します

施設名	休館・休業期間
ごみ収集 ※① 問 町民生活課 ☎ 内線359	12/29(日)～1/5(日)
ごみ持込み(がれき等) ※② 問 町民生活課 ☎ 内線359	12/24(火)～1/5(日)
ごみ持込み(生ごみ) ※③ 問 クリーンセンター ☎ 75-7679	1/1(水)～1/3(金)
ごみ持込み(一般ごみ) ※④ 問 エコクリーンプラザみやざき ☎ 30-6511	12/29(日)～1/5(日)
し尿汲取り ※⑤ 問 株式会社産商 ☎ 75-8243	12/29(日)～1/5(日)

施設名	休館・休業期間
国富町役場 問 総務課 ☎ 内線222	12/28(土)～1/5(日)
国富町立図書館 ※ 問 ☎ 75-9577	12/29(日)～1/4(土)
農村環境改善センター 問 社会教育課 ☎ 内線423	12/28(土)～1/4(土)
総合文化会館 問 社会教育課 ☎ 内線423	12/28(土)～1/4(土)

※休館中の本の返却は図書館入口の「返却ポスト」を利用してください。大型絵本などのサイズが大きいものは開館時にカウンターで返却してください。

施設名	休館・休業期間
体育館・運動公園 問 社会教育課 ☎ 内線426	12/28(土)～1/4(土)
法華嶽公園 問 公園管理事務所 ☎ 78-1943	12/30(月)～1/2(水)
デマンド型乗合タクシーよつば号 問 企画政策課 ☎ 内線243	12/29(日)～1/3(金) ※1/5(日)は運休





乳児相談と離乳食教室

■にこにこサークル（乳児相談）

▶日時 1月7日(火)13時～14時受付

▶次回開催 2月4日(火)

授乳相談のほか、身長や体重などの測定もありますので母子健康手帳を持参してください。

■マンマクラブ（離乳食教室）※要予約

▶日時 1月22日(水)9時45分～10時受付

▶申込締切 1月14日(火)

▶次回開催 2月14日(金)

感染症予防のため調理実習は行わず試食のみになります。母子健康手帳やタオル、必要に応じて子ども用の椅子などをお持ちください。

問保健センター☎75- 3553



総合文化会館企画展

国富町総合文化会館で「私たちの針仕事」を開催します。

▶日時 12月1日(日)～15日(日) 9時～17時※(月)休館、最終日は15時まで

▶場所 総合文化会館2階 美術の間

問社会教育課☎内線423



防火と防災を考える



住宅防火防災対策の重要性などを伝えるシンポジウムを開催します。当日は、タレントで山形弁研究家のダニエル・カール氏を迎え、パネルディスカッションを行うほか、市消防団女性分団が寸劇を披露します。入場無料で、どなたでも参加できます。

▶日時 12月21日(土)13時～16時

▶場所 JA・AZMホール

▶入場料 無料

問住宅防火対策推進協議会事務局

☎03-6264-6021



春休み海外研修交流事業



公益社団法人国際青少年研修協会では、春休み海外研修交流事業の参加者を募集しています。内容は選択する研修先ごとに異なります。上記QRコードから、申し込み方法や参加費などの詳細をご確認ください。

問国際青少年研修協会☎03-6825-3130



保育施設入所受付

新年度の保育所、幼稚園、認定こども園への新規及び変更の申込みを受付けます。入所中の施設に継続して入所を希望する人は、施設を通じて継続入所の手続きをしてください。

▶受付 令和7年1月31日(金)まで

▶申込方法 12月中旬から福祉課または各施設で申込書を配布します。必要事項を記入して福祉課または各施設へ提出してください。

問福祉課☎内線325



放送大学入学生募集

放送大学は、2025年4月入学生を募集します。8万5千人以上の学生が300以上の科目から好きな科目を学んでいます。資料は無料で配布していますのでお気軽にご連絡ください。

▶出願期間 ①第1回は2月28日(金)まで②第2回は3月11日(火)まで

問放送大学宮崎学習センター

☎0982-53-1893



電飾の無料貸し出し

イルミネーションに使用できる電飾の貸し出しを行います。

▶対象 各地区、保育園または非営利団体など※個人への貸し出しは行っていません。

▶貸出期間 2月28日(金)まで

▶費用 無料※電気料はかかります

▶申込方法 電話申込み（随時受付）

問真冬のたなばた実行委員会事務局

☎内線243(企画政策課)



中小企業退職金共済制度

中退共制度は国の退職金制度で、掛金の一部を国が助成します。パートも家族従業員も加入できます。ホームページ「中退共」をご覧ください。

問中小企業退職金共済事業本部

☎03-6907-1234



良い睡眠で仕事も家庭も円満に



ココロとカラダを元気にし、仕事ははかどり、家庭が円満になるよう、良い睡眠について学ぶ研修会を開催します。

▶日時 12月16日(月)19時～20時

▶場所 綾町高齢者研修センター

▶対象者 どなたでも、参加無料

▶講師 潤和会記念病院脳神経内科 医長 中尾 紘一^{ひろし}先生

▶申込方法 上記QRコードから申し込むか電話申し込み

問東諸県地域自殺対策推進協議会

☎28-2111（事務局中央保健所）



遺跡周辺の開発行為に注意

町内には多くの遺跡や古墳が点在しています。遺跡周辺の土地は、規制がかけられている場合がありますので開発などの計画がある方は事前にお問い合わせください。

問社会教育課☎内線422



マイナンバーカード手続き

マイナンバーカードの申請は事前に予約をしてお越しください。申請後は、お手元に交付通知ハガキが届きます。カード受け取りの際も、事前に予約をして取りに来てください。

▶休日交付 9時～11時※要予約

12月8日(日)、1月12日(日)

▶夜間交付 17時～19時※要予約

12月19日(木)、1月16日(木)

▶平日交付の受付時間 ※要予約

8時30分～11時30分

13時30分～16時30分

問町民生活課☎内線352

今年最後の花火と音楽の祭典

ハナビートフェスティバル

北俣こども園の和太鼓演奏やチキンナンゴーのフリートークなど、多彩な催しが行われる「ハナビートフェスティバル」を開催します。当日は、キッチンカーなどのグルメが19店舗出店するほか、19時30分からは500発の花火が打ち上がり、冬の夜空を彩ります。※役場敷地内のイルミネーション設置はありません。

▶日時 12月14日(土)17時～20時

▶場所 国富町役場（南西駐車場）

▶内容 グルメ出店のほか①北俣こども園和太鼓演奏②瓜倉エイサー団③ジュークボックス（バンド）④永吉愛と鼓舞（太鼓とピアノ）⑤チキンナンゴーのフリートーク

▶駐車場 国富町役場内を利用してください

問真冬のたなばた実行委員会事務局

☎内線243(企画政策課)

パブリックコメント募集

地球温暖化対策実行計画

町では2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目標に国富町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定を進めています。つきましては、皆さまからの意見を計画に反映させるため、パブリックコメントを募集します。下記QRコードから本計画の素案を確認いただき、ご意見をお寄せください。

パブリックコメントの提出方法

意見と住所、氏名を記入のうえ、次のいずれかの方法で提出してください。

▶持参・郵送 〒880-1192 国富町大字本庄4800番地 国富町役場町民生活課 宛

▶Email choumin@town.kunitomi.miyazaki.jp

▶FAX 0985-75-9400

▶期限 12月10日(火)まで

問町民生活課☎内線359



多大な処理費は原因者負担になります

油流出の事故が増えています

事業所のタンクや農業用貯油施設から重油や軽油が漏れ、河川などに流出する事故が増えています。その原因の多くが維持管理不足による「うっかりミス」です。あらためて、維持管理を徹底しましょう。

▶油流出事故の費用は原因者負担 事故を起こすと油吸着マット代や使用済み吸着マットおよび汚染土壌の処分費用など多大な処理費が発生します。

▶暮らしや生態系に悪影響を及ぼす 河川が汚染されれば上水道の取水ができなくなり、規模によっては多くの世帯が断水します。また、対応は長期間に及ぶため、生態系にも悪影響を与えます。

▶点検・管理のチェックポイント（農業用燃料タンク）

①燃料タンクや配管などの破損、腐食、油の漏れ、にじみを点検する②バルブの締め忘れがないかを確認する③使用量と給油量を定期的に確認する

▶油事故を起こした場合や発見した場合 速やかな対応が被害の拡大を防ぎます。発見した場合は、宮崎市消防局西部出張所や役場へご連絡ください。

問町民生活課 75- 3816

問農林振興課 75- 3609

問宮崎市消防局西部出張所 75-4664



河川に浮く油



子どもたちの安全を見守り続けて18年 青パト隊が九州防犯功労団体表彰を受賞

地域安全活動に功労のあった団体や個人を表彰する令和6年度防犯功労者（団体）表彰の受賞式が10月16日（水）、日南市で開かれ、国富町青少年育成町民会議安全パトロール隊（以下、青パト隊）が九州防犯功労団体表彰を受賞、青パト隊の隊員を長年にわたり務める井上光幸さん「六日町東」と福島和彦さん「二丁田」が宮崎県防犯功労者表彰を受賞しました。

青パト隊は、平成19年に結成され、小中学生の下校時間に合わせ、子どもの見守り活動を行っています。現在は、地域の有志26人が協力して週3回のパトロールを実施。発足当時から活動する井上さんと福島さんは「お世話になっている地元への恩返しと、何より子どもが好きな気持ちが活動の原動力です」と話します。

青パト隊を代表して受賞式に参加した水元正満（みづもと しょうまん）会長は「青パト隊は、まち全体で子どもたちを見守り育てようとする気持ちが形になって現れたものです。その心が表彰につながったことは、大変ありがたいことだと思います」と話しました。

広報紙へのご意見ご感想、情報提供をお待ちしています。

メール送信用QRコード▶



- ▶ **本紙へのご意見ご感想**: 郵便ハガキ（〒880-1192 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄 4800 番地 国富町役場総務課宛）またはメールに必要事項を記入しお寄せください。持参も可。持参の場合は、郵便ハガキ以外の用紙（メモ用紙など）で提出することもできます。
- ▶ **必要事項**: ①ご意見ご感想 ②氏名・住所・年齢・ご連絡先（②は記入いただける範囲でご記入ください）
- ▶ **その他**: 取得した個人情報はいただいたご意見の回答のみに使用します。ご意見ご感想は次号でご紹介することがあります。